

E. 早産予防に関する研究

諸 橋 侃 (東京女子医科大学
母子総合医療センター)
千 村 哲 朗 (山形大学医学部産婦人科)
久 靖 男 (大阪府立母子保健
総合医療センター)

研究目的

早産未熟児出生の予防が周産期死亡を減少させるうえで極めて重要なことは、未熟児管理の進歩した現在においても広く認められていることである。

そこで私たちは、早産予防の管理指針を作成するための基礎資料として、今年度は次の2点について検討した。

- 1) 早産発生原因に関する臨床統計
- 2) 切迫早産における治療開始条件

成 績

1) 早産発生の原因としてはPROM (43.1%) 頸管無力症を含む切迫早産から早産への移行 (31.6%)、重症妊娠中毒症 (10.4%) が多く、次いで前置胎盤、常位胎盤早期剥離、子宮内胎児死亡、児奇形などであった (表1)。PROM発生後分娩に移行した理由を調べると、約半数は陣痛抑制不可能となって分娩に移行していることが示された (表2)。

2) 早産の原因は多原的であり、かつその原因は相錯している。一方切迫早産から早産への移行についてはその原因が明確でないことが多く、そのような症例においては早産予防のため子宮収

縮抑制剤の投与が重要な役割を果たすものと考えられる。しかし切迫早産における tocolysis の適応、治療開始条件についての基準は定まっていない。

そこで切迫早産の治療開始の条件を設定するために、子宮収縮、破水、性器出血、頸管開大度も程度によって scoring し、その合計点による tocolysis index を定めた。そして tocolysis index と β 2-stimulant による arrest ratio について検討した (表3)。治療成功群では全例が子宮開大4cm以下であり、tolcolysis index 6以上では全例が早産にいたっている。したがって予後からみた tocolytic agents 治療限界は子宮口開大4cm以下、tolcolysis index 5以下であるといえる。

これらの基礎資料に基づき、次年度は以下の点について検討し、早産予防の管理指針を示す予定である。

- 1) 早産の risk factor、とくに頸管無力症を含む切迫早産から早産への移行症例の risk factor の検討。
- 2) tocolysis の適応と禁忌
- 3) tocolysis の実際 (使用薬剤の有用性、使用方法、副作用など)

表1.

Causes of Premature delivery

	1981	1982	1983	1984, 1~6	Total
PROM	13 (65)	65 (42.5)	92 (45.5)	42 (36.2)	212 (43.1)
T. P. D	5 (25)	41 (27.0)	66 (32.7)	43 (37.1)	155 (31.6)
Toxemia	1 (5)	18 (11.8)	21 (10.4)	11 (9.5)	51 (10.4)
IUFD		7 (4.6)	8 (4.0)	4 (3.4)	19 (3.7)
Anomaly		6 (3.9)	4 (2.0)		10 (2.0)
Previa	1 (5)	10 (6.5)	5 (2.5)	7 (6.0)	23 (4.7)
Abruptio		4 (2.6)	2 (1.0)	4 (3.4)	10 (2.0)
Fetal death		2 (1.3)	3 (1.5)	3 (2.6)	8 (1.6)
others			1 (0.5)	2 (1.7)	3 (0.6)
Total	20 (%)	153 (%)	202 (%)	116 (%)	491 (%)

表2.

PROM から分娩に移行した理由

(n=17) (n=64) (n=81)

	<28w (%)	28w ≤ (%)	計
陣痛抑制不能	7 (41.2)	33 (51.6)	40 (49.4)
胎児仮死	4 (23.5)	8 (12.5)	12 (14.8)
胎児成熟	0 (0.0)	9 (14.1)	9 (11.1)
前置胎盤・早剥 の出血	1 (5.9)	6 (9.4)	7 (8.6)
感染及びその疑	2 (11.8)	4 (6.3)	6 (7.4)
骨盤位・横位	2 (11.8)	3 (4.7)	5 (6.2)
胎児死亡	1 (5.9)	1 (1.6)	2 (2.5)
計	17 (100.0)	64 (100.0)	81 (100.0)

☒ 3. Tocolysis Index と Arrest Ratio

Premature labour score : Tocolysis Index

	0	1	2	3	4
CONTRACTIONS	∅	IRREGULAR	REGULAR	-	-
RUPT. MEMBRANES	∅	-	HIGH OR QUEST	-	LOW
BLEEDING	∅	SPOTTING	BLEEDING	-	-
DILATATION	∅	1cm	2cm	3cm	4cm OR MORE

Baumgarten

$$\text{Arrest Ratio (A.R)} = \frac{\text{Lgt}}{40 - \text{Ga}} \times 100$$

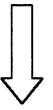
Lagtime = between onset of treatment and delivery (weeks)

Ga = gestational age at onset of treatment (weeks)

CHIMURA (1975)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究目的

早産未熟児出生の予防が周産期死亡を減少させるうえで極めて重要なことは、未熟児管理の進歩した現在においても広く認められていることである。

そこで私たちは、早産予防の管理指針を作成するための基礎資料として、今年度は次の2点について検討した。

- 1)早産発生原因に関する臨床統計
- 2)切迫早産における治療開始条件